

課題を簡単に把握・管理するための提案と検証



大阪府立桜和高等学校

小倉弘幸 佐藤優光 古川七海

背景・目的

私たちはGoogle Classroomに配信される課題の量が多いことや各授業で別々のクラスがあることで課題の管理が難しいと感じている。（以後Google ClassroomをClassroomと称する。）

そこで、2・3年生を対象に「Classroomでの課題管理について」というアンケートを行ったところ241人の回答があった。

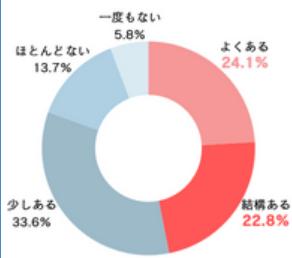


図1：配信された課題を見落とした・忘れた経験を表した円グラフ

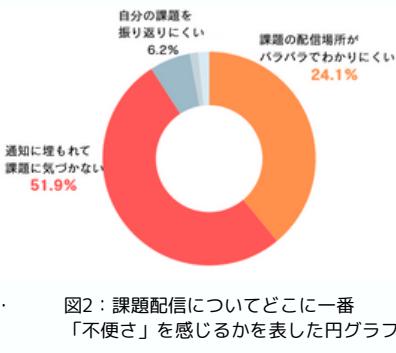
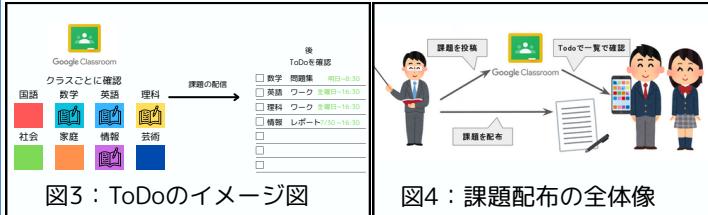


図2：課題配信についてどこに一番「不便さ」を感じるかを表した円グラフ

まず、1週間にClassroomで配信された課題の数についての質問には3~5件が50.2%という結果になった。このことからClassroomで課題が配信されることは当たり前になっていることがわかった。次にClassroomに配信された課題を「見落とした、忘れた経験」についての質問には、図1のように「よくある」「結構ある」が合わせて46%という結果になった。そのため「見落とした、忘れた経験」がある人が2人に1人いる状況である。次に、Classroomでの課題配信についてどこに一番「不便さ」を感じるかの質問では、図2のように「課題の配信場所がバラバラで分かりにくい」が39%、「通知に埋もれて気づかない」が51.9%という結果になった。このことからClassroomでの課題は配信について不便と感じている人が多いことがわかった。これらのアンケート結果から提出物を把握しやすくするために、教員に配信の仕組みを理解していただく場と課題配信への協力を願う必要がある。そして、Classroomの機能を調査し課題管理を簡単にする機能を提案し、使用することで生徒が簡単に課題の把握、管理ができる運用方法を提案する。

提案内容

課題管理を簡単にする機能であるToDoを利用すると、図3のよう^にに生徒はどのクラスで配信されたかに関わらず、すべての課題を一覧で確認することができる。ToDoを利用するためには教員のみ可能な課題配信機能を用いる必要がある。この機能を用いることで生徒のToDoのタブに課題が表示され、生徒に課題の通知が届き、一目見るだけでわかるようになる。



Classroom上で課題そのものを投稿することを「課題配信」、実際に課題を紙で渡す場合は「課題配布」と定義する。図4は生徒・教員の課題配布の全体像である。教員が生徒に課題を配布するとともに、Classroomの課題配信機能を使用する。

生徒・教員のClassroomの使い方とToDoを利用することのメリットは次のとおりである。

<生徒のClassroomの使い方>

①Classroom登録科目のタブの一番上にあるToDoを開く。
②投稿された課題が提出期限順に表示されるため、確認する。生徒のメリットは、提出期限順に課題を一覧で見ることが可能なため、課題の優先順位がわかりやすいことである。さらに期限の1日前になると自動で通知がくるため、課題の存在と提出期限を忘れるの防止が期待できる。生徒はClassroomのToDo機能を用いることで課題を探す手間を減らすことができる。ToDoの中でも、割り当て済み・未提出・完了のタブで分けられるため、生徒自身の課題の進捗状況に応じてチェックリストと同じように使うことができる。

<教員のClassroomの使い方>

①該当クラス上部にあるタブ「授業」を開く。
②「作成」から課題を開く。
③タイトル、課題の詳細、期限を入力し、割り当てる。教員のメリットは手間がかからないこと、課題率向上の見込みがあることである。教員に対して、課題配信機能やToDo機能のプレゼンテーションを行う。生徒に対して、ToDoの使用方法、通知の設定方法を周知する。

検証・検証結果

最初に教員に普及するために呼びかけを行い、5月23日・5月26日・6月3日の3度に分けて合計36人の教員にToDoについての説明、資料配信を行った。生徒にはICT活用委員を通じて各クラスにToDoの説明、資料配信を行った。教員・生徒に普及させる時間と期末テストにより課題などの連絡が多くなることを考え、期末テストの二週間前の6月16日から期末テストが終わるまでをToDoの試用期間とし、提出物やテストの範囲をClassroomで課題として配信することを教員にお願いした。その後、期末テストの終了する7月9日以降に生徒に対しToDoについてのアンケートを行った。

	とてもある	ある	ない	全くない
before	21.2%	39%	34%	5.8%
after	11.3%	11.3%	59.9%	17.6%

表1はclassroomでの課題配信におけるストレス度合を試用期間前後で比較

した結果である。表1の赤枠に注目すると、試用期間前は「とてもある」「ある」の回答が合計60.2%であるのに比べ、試用期間後は「とてもある」「ある」の回答が合計22.6%となり、試用期間前後で37.6%減少した。

	よくある	結構ある	少しある	ほとんどない	一度もない
before	24.1%	23%	34.0%	13.7%	5.8%
after	17.3%	20.8%	30.6%	22.5%	8.8%

表2は配信された課題を見落とした・忘れた経験について試用期間前後で比較した結果である。表2の赤枠に注目すると、試用期間前は「ほとんどない」「一度もない」の回答が合計19.5%であるのに比べ、試用期間後は「ほとんどない」「一度もない」の回答が合計31.3%となり試用期間前後で11.8%増加した。

結果として、ToDoの利用により生徒が簡単に課題の把握、管理ができるようになったと言える。

展望

課題締め切りの時間を設定していなかったため、締め切り前日の23時59分に通知が届く問題が発生した。また、課題・資料の配信ルールを統一する必要があるのではないかと考えたが、教科によって特徴が異なるため一概にはいえないと思い、どちらも今後の取り組みについてICT活用委員長の教員と相談している。